

Interview #06

*2026年3月インタビュー

2026年3月所属：生命農学研究科 植物生産科学専攻

(日本学術振興会特別研究員／名古屋大学融合フロンティアフェロー／
東海国立大学機構メイク・ニュー・スタンダード次世代研究事業RESEARDENT)

2026年4月所属：岡山大学 テニユア・トラック助教



生命農学研究科 日野 雄太 さん

■ これまでやってきた研究の概要を教えてください。

私の研究は、植物が病気から身を守るための、とても小さな分子レベルのメカニズムを明らかにするものです。植物の病気と聞くと、あまりピンと来ない方も多いと思うのですが、実は植物にも病原体がいて、それに対抗する仕組みがあります。ただ、人間の免疫とは全く違って、植物独自のシステムなんです。まだ分かっていない部分も多くて、そこを明らかにすることで、農業生産を病気から守ることにつながるかと考えて研究してきました。修士から博士まで、5年間取り組んできたテーマになります。

■ この春からはどういう仕事をする予定ですか？

この春からは、岡山大学の資源植物科学研究所に所属して、助教として研究を続ける予定です。今も植物免疫の研究をしているのですが、移る先でも同じ分野の研究室で、基本的にはこれまでの研究を継続していきます。

ただ、これまではモデル植物を使っていたのに対して、今後はイネなど実際の作物を対象にした研究になるので、より農業への応用を意識した方向に広がっていくと思っています。

■ 就職活動の経緯や、キャリアに関する考え方は？

実は博士課程のかなり後半までは、企業就職を本線として考えていました。大学のキャリア教育のイベントに参加したり、インターンや就職活動も一通り経験しましたし、そのまま企業に進むことも十分あり得ると思っていました。ただ、実際に就活を進めていく中で、自分の研究のモチベーションがどこにあるのかを考え直すようになりました。面接やインターンでいろいろ話していく中で、自分はやっぱり「好奇心」で研究をしているんだなと感じる場面が多くて、一方で企業の方とのやり取りの中で、その部分に少しギャップを感じることもありました。どちらが良い悪いというより、自分にはどちらが合っているかを考えた結果、アカデミアを選んだという形です。

また、今回のポジションは国際学会での出会いがきっかけでした。ドイツの学会で、日本人研究者同士で食事をする機会があって、そこで初めてお話した先生だったのですが、その後も覚えていただいていたので、公募が開始された際に声をかけていただき応募・選考に臨む決断をしました。

■ キャリア形成にあたって活用したこと、在学中に経験してよかったことを教えてください。

一番良かったと思っているのは、民間企業の就職活動を実際にやってみたことです。結果的にはアカデミアに進みましたが、その過程で自分が何をやりたいのか、かなり深く考えるきっかけになりました。面接では、専門外の方や文系の人事の方に研究内容を説明する機会も多くて、どうすれば伝わるのか試行錯誤した経験は大きかったと思います。

それに加えて、学会などでとにかくいろいろな人に話しかけに行ったことも印象に残っています。海外の研究者を見かけたら、iPadを持って「5分だけ研究を聞いてください」とお願いして、短く自分の研究を説明するようなこともしていました。最初は勇気がいりましたが、そういう場数を踏むことで、自然とコミュニケーションにも慣れていきましたし、自分のことを知ってもらうきっかけにもなったと思います。

■ 就職活動で評価されたであろうと思うことはありますか？

はっきりこれが評価された、というよりは、いろいろな場での積み重ねが繋がったのかなと思っています。学会に積極的に参加していたことや、研究者同士のコミュニケーションを大事にしていたことが、周りの先生方を通じて伝わっていたようでした。実際に採用された研究室の先生からも、いろいろな方から私のことを聞いていたと言っていて、そういう意味では、普段の振る舞いや発信が評価につながったのかなと感じています。

■ 後輩たちにエールをお願いします。

まずは、とにかく目の前の研究にしっかり取り組むことが一番大事だと思います。私自身、論文が1本出てから周りの反応が変わったと感じましたし、コミュニティの中で自分の立ち位置が見えてきた感覚もありました。その上で、人とのつながりや経験が生きてくるのだと思います。

また、研究がうまくいかない時期もあると思いますが、私はメインテーマとは別にサブテーマをいくつか走らせていたのがよかったと思っています。いくつものテーマを持つことは大変でもあります、大きなテーマがうまく進まないときでもサブテーマが進んでいると安心感につながります。実際にそのサブテーマが先に論文になったこともありました。もちろん人によって向き不向きはあると思いますが、少しでも精神的に余裕を持てる工夫は大事だと思います。

将来が見えなくて不安になることもあると思いますが、研究に真剣に向き合った経験は、どの進路に進んでも必ず活きると思います。まずは目の前の研究に全力で取り組んでみてほしいです。